

**Oracle® Server X5-2L VMware ESXi イン
ストールガイド**

ORACLE®

Part No: E58218-01
2014 年 10 月

Part No: E58218-01

Copyright © 2014, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

このソフトウェアおよび関連ドキュメントの使用と開示は、ライセンス契約の制約条件に従うものとし、知的財産に関する法律により保護されています。ライセンス契約で明示的に許諾されている場合もしくは法律によって認められている場合を除き、形式、手段に関係なく、いかなる部分も使用、複写、複製、翻訳、放送、修正、ライセンス供与、送信、配布、発表、実行、公開または表示することはできません。このソフトウェアのリバース・エンジニアリング、逆アセンブル、逆コンパイルは互換性のために法律によって規定されている場合を除き、禁止されています。

ここに記載された情報は予告なしに変更される場合があります。また、誤りが無いことの保証はいたしかねます。誤りを見つけた場合は、オラクル社までご連絡ください。

このソフトウェアまたは関連ドキュメントを、米国政府機関もしくは米国政府機関に代わってこのソフトウェアまたは関連ドキュメントをライセンスされた者に提供する場合は、次の通知が適用されます。

U.S. GOVERNMENT END USERS: Oracle programs, including any operating system, integrated software, any programs installed on the hardware, and/or documentation, delivered to U.S. Government end users are "commercial computer software" pursuant to the applicable Federal Acquisition Regulation and agency-specific supplemental regulations. As such, use, duplication, disclosure, modification, and adaptation of the programs, including any operating system, integrated software, any programs installed on the hardware, and/or documentation, shall be subject to license terms and license restrictions applicable to the programs. No other rights are granted to the U.S. Government.

このソフトウェアもしくはハードウェアは様々な情報管理アプリケーションでの一般的な使用のために開発されたものです。このソフトウェアもしくはハードウェアは、危険が伴うアプリケーション（人的傷害を発生させる可能性があるアプリケーションを含む）への用途を目的として開発されていません。このソフトウェアもしくはハードウェアを危険が伴うアプリケーションで使用する場合、安全に使用するために、適切な安全装置、バックアップ、冗長性（redundancy）、その他の対策を講じることは使用者の責任となります。このソフトウェアもしくはハードウェアを危険が伴うアプリケーションで使用したこと起因して損害が発生しても、オラクル社およびその関連会社は一切の責任を負いかねます。

OracleおよびJavaはOracle Corporationおよびその関連企業の登録商標です。その他の名称は、それぞれの所有者の商標または登録商標です。

Intel、Intel Xeonは、Intel Corporationの商標または登録商標です。すべてのSPARCの商標はライセンスをもとに使用し、SPARC International, Inc.の商標または登録商標です。AMD、Opteron、AMDロゴ、AMD Opteronロゴは、Advanced Micro Devices, Inc.の商標または登録商標です。UNIXは、The Open Groupの登録商標です。

このソフトウェアまたはハードウェア、そしてドキュメントは、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセス、あるいはそれらに関する情報を提供することがあります。オラクル社およびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスに関して一切の責任を負わず、いかなる保証もいたしません。オラクル社およびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセスまたは使用によって損失、費用、あるいは損害が発生しても一切の責任を負いかねます。

目次

このドキュメントの使用方法	7
VMware ESXi のインストールについて	9
VMware ESXi のインストールのタスクマップ	9
サポートされている VMware ESXi ソフトウェア	10
VMware ESXi のインストールオプション	11
単一サーバーへのインストール方法	11
VMware ESXi のインストール準備	13
ブート環境の準備	13
▼ BIOS の最適なデフォルト値を確認する	14
▼ ブートモードを設定する	15
ホストコンソールへのアクセス	17
▼ ローカルグラフィックスモニターを使用してホストコンソールにア クセスする	18
▼ Oracle ILOM リモートシステムコンソールプラスを使用してホスト コンソールにアクセスする	18
ブートメディアの準備	19
▼ ローカルインストール用のブートメディアを設定する	19
▼ リモートインストール用のブートメディアを設定する	19
インストール先の準備	20
インストール先のオプション	21
▼ ローカルストレージドライブ (HDD、SSD、または RAID ボリューム) をインストール先として設定する	22
▼ ファイバチャネル Storage Area Network デバイスをインストール先 として設定する	22
ESXi 5.5 のインストールをサポートするための HBA のキャッシュ設定の構 成	23
▼ レガシー BIOS ブートモードで HBA のキャッシュ設定を構成す る	23
▼ UEFI ブートモードで HBA のキャッシュ設定を構成する	27

VMware ESXi のインストールをサポートするための入出力設定の構成	33
▼ 「PCI 64 Bit Resources Allocation」 プロパティを無効にする	33
必要な情報の収集	36
VMware ESXi のインストール	39
開始する前に	39
メディアを使用した単一システムへの VMware ESXi のインストール	40
▼ ローカルまたはリモートメディアを使用した VMware ESXi のインストール	40
VMware ESXi のインストール後のタスク	43
▼ 接続されているサーバーネットワークポートの MAC アドレスを確認する	43
▼ ネットワークアダプタ設定を構成する	44
▼ megaraid_sas ドライバを有効にする	49
▼ レガシー BIOS ブートモードで HBA のキャッシュ設定をデフォルト値に戻す	51
▼ UEFI ブートモードで HBA のキャッシュ設定をデフォルト値に戻す	56
▼ VMware ESXi ソフトウェアを更新する	61
VMware ESXi リソースを管理する	61
ネットワークインタフェースの構成	63
NIC コネクタ	63
索引	65

このドキュメントの使用方法

- **概要** – このインストールガイドでは、VMware ESXi ソフトウェアのインストール手順と、Oracle Server X5-2L を構成可能かつ使用可能な状態にするためのソフトウェアの初期構成に関する手順について説明します。
- **対象読者** – このガイドは、技術者、システム管理者、および認定サービスプロバイダを対象にしています。
- **必要な知識** – ユーザーは、仮想マシンソフトウェアをインストールした経験が必要になります。

製品ドキュメントライブラリ

この製品の最新情報や既知の問題は、ドキュメントライブラリ (<http://www.oracle.com/goto/X5-2L/docs>) に含まれています。

Oracle サポートへのアクセス

Oracle サポートサービスでは、My Oracle Support を通して電子支援サービスを提供しています。詳細は、<http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=acc&id=info> を参照してください。聴覚に障害をお持ちの場合は、<http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=acc&id=trs> を参照してください。

ドキュメントのアクセシビリティ

アクセシビリティに対する Oracle のコミットメントについては、Oracle Accessibility Program の Web サイト (<http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=acc&id=docacc>) を参照してください。

フィードバック

このドキュメントに関するフィードバックを <http://www.oracle.com/goto/docfeedback> からお寄せください。

VMware ESXi のインストールについて

VMware ESXi のインストール用にサーバーを準備する前に、このセクション内のトピックを確認してください。

説明	リンク
VMware ESXi のインストール手順を確認します。	9 ページの「VMware ESXi のインストールのタスクマップ」
Oracle Server X5-2L 上で VMware ESXi のどのバージョンがサポートされているかを確認します。	10 ページの「サポートされている VMware ESXi ソフトウェア」
VMware ESXi のインストールオプションを確認します。	11 ページの「VMware ESXi のインストールオプション」

関連情報

- [39 ページの「VMware ESXi のインストール」](#)

VMware ESXi のインストールのタスクマップ

次の表では、VMware ESXi ソフトウェアをインストールするための高レベルの手順について説明します。

手順	説明	リンク
1.	サーバーハードウェアを設置し、サービスプロセッサを構成します。	<ul style="list-style-type: none">■ 『Oracle Server X5-2L 設置ガイド』の「サーバーのラックへの設置」■ 『Oracle Server X5-2L 設置ガイド』の「サーバーの配線」■ 『Oracle Server X5-2L 設置ガイド』の「Oracle ILOM への接続」
2.	サーバー上でサポートされている VMware ESXi のバージョンを確認します。	10 ページの「サポートされている VMware ESXi ソフトウェア」
3.	インストール方法を選択します。	11 ページの「VMware ESXi のインストールオプション」

手順	説明	リンク
4.	VMware ESXi のインストールメディアおよびドキュメントを入手します。VMware のドキュメントを、このガイドで説明されているインストール手順およびインストール後の手順とともに使用するよう to してください。	<ul style="list-style-type: none"> ■ VMware ESXi インストールプログラムの ISO イメージは、次の Web サイトからダウンロードできます。 http://www.vmware.com/download ■ VMware ESXi 5.5 のドキュメントは、次の Web サイトから入手できます。 http://pubs.vmware.com/vsphere-55/index.jsp
5.	サーバーのプロダクトノートを確認します。	<p>次の Web サイトにある『Oracle Server X5-2L プロダクトノート』</p> <p>http://www.oracle.com/goto/X5-2/docs</p>
6.	インストールを実行するために使用するコンソール、ブートメディア、インストール先、およびブートモードを設定します。	13 ページの「VMware ESXi のインストール準備」
7.	VMware ESXi ソフトウェアをインストールします。	39 ページの「VMware ESXi のインストール」
8.	インストール後処理タスクを実行します (該当する場合)。	43 ページの「VMware ESXi のインストール後のタスク」

サポートされている VMware ESXi ソフトウェア

サーバーは、次の VMware ESXi ソフトウェアをサポートしています。

VMware ソフトウェア	版
VMware ESXi 5.5	5.5

さらに、サポートされているその他のオペレーティングシステムや仮想マシンソフトウェアをサーバーにインストールすることもできます。サーバーでサポートされているオペレーティングシステムの最新のリストについては、<http://www.oracle.com/goto/X5-2L/docs> にある最新バージョンの『Oracle Server X5-2L プロダクトノート』を参照してください。

Oracle Solaris ハードウェア互換リスト (HCL) には、Oracle ハードウェアでサポートされている最新のオペレーティングシステムバージョンが示されています。Oracle Server X5-2L でサポートされている VMware ESXi の最新バージョンを見つけるには、次のサイトにアクセスし、サーバーのモデル番号を使用して検索してください。<http://www.vmware.com/resources/compatibility/search.php>

関連情報

- [39 ページの「VMware ESXi のインストール」](#)

VMware ESXi のインストールオプション

このドキュメントでは、ローカルまたはリモートで、単一サーバーに VMware ESXi をインストールする方法について説明します。ただし、このソフトウェアをインストールするためのオプションはほかにも存在します。これについては、<http://pubs.vmware.com/vsphere-55/index.jsp> にある VMware のドキュメントに詳しく記載しています。単一サーバーへのインストール方法の詳細は、次のセクションを参照してください。

- 11 ページの「単一サーバーへのインストール方法」

単一サーバーへのインストール方法

VMware ESXi をサーバーにインストールする方法を選択します。次の表を使用して、ニーズにもっとも適したインストール方法を確認してください。

メディアの配布方法	その他の要件
<p>ローカル –サーバーのフロントパネルにある (オプションの) DVD ドライブか、サーバーのいずれかの USB ポートに接続された CD/DVD ドライブを使用します。VMware ESXi インストーラの ISO イメージが CD/DVD 上で使用できる必要があります。</p> <p>このオプションは、物理的にラックにサーバーを設置し終えたばかりのときにお勧めします。</p> <p>リモート –Oracle ILOM リモートシステムコンソールプラスアプリケーションを実行しているリモートシステムを使用します。VMware ESXi インストーラの ISO イメージがリモートシステムにダウンロードされているか、リモートシステムの CD/DVD ドライブ内の CD/DVD 上で使用できるか、またはサーバーのサービスプロセッサ (SP) にマウントされている必要があります。</p> <p>あるいは、ISO イメージをネットワーク上の別の場所からリダイレクトできます。詳細は、『Oracle ILOM 構成および保守用管理者ガイド』の Oracle ILOM リモートデバイスのセクション、または「Oracle ILOM Remote Control」->「Host Storage Device」Web インタフェースページにある「More Details」リンクを参照してください。</p> <p>PXE イメージ –サーバー PXE (Preboot eXecution Environment) を使用して、ネットワークインタフェースから ESXi インストーラを起動します。</p>	<p>モニター、USB キーボード、USB マウス、CD/DVD ドライブ、および CD/DVD 上の VMware ESXi インストーラの ISO イメージ。ローカルインストールの場合は、サーバーに直接接続された CD/DVD ドライブを使用してインストールメディアを提供します。</p> <p>Web ブラウザ、VMware ESXi インストーラの ISO イメージへのアクセス、およびサーバーの管理ポート (NET MGT) へのネットワークアクセスを備えたリモートシステム。リモートインストールの場合は、Oracle ILOM リモートシステムコンソールプラスデバイスのリダイレクション機能を使用してインストールメディアを提供します。</p> <p>ESXi のインストールイメージを含む PXE サーバー。 注記 -PXE による ESXi のインストールイメージのブートは、このドキュメントの適用範囲には含まれません。PXE による ESXi インストーラのブートについては、VMware vSphere ESXi および vCenter Server 5.5 のドキュメントを参照してください。</p>

VMware ESXi のインストール準備

このセクションでは、VMware ESXi のインストールのために環境を準備する方法について説明します。

説明	リンク
BIOS を最適なデフォルト値に設定し、ブートモードを設定します。	13 ページの「ブート環境の準備」
ホストコンソールにローカルまたはリモートでアクセスします。	17 ページの「ホストコンソールへのアクセス」
ブートメディアを準備します。	19 ページの「ブートメディアの準備」
インストール先を準備します。	20 ページの「インストール先の準備」
ESXi 5.5 のインストールをサポートするように Oracle Storage 12 Gb/s SAS PCIe RAID 内蔵 HBA のキャッシュ設定を構成します。	23 ページの「ESXi 5.5 のインストールをサポートするための HBA のキャッシュ設定の構成」
インストールに必要な情報を収集します。	36 ページの「必要な情報の収集」

ブート環境の準備

VMware ESXi をインストールする前に、実行する予定のインストールの種類をサポートするように BIOS 設定が構成されていることを確認してください。BIOS 設定ユーティリティで、ブート順序やブートモードなどの BIOS 設定を変更できます。

次のトピックでは、インストールをサポートするように BIOS を構成する方法について具体的に説明しています。

- [14 ページの「BIOS の最適なデフォルト値を確認する」](#)
- [15 ページの「ブートモードを設定する」](#)

ブートプロパティの変更の詳細は、<http://www.oracle.com/goto/x86AdminDiag/docs> にある『Oracle X5 シリーズサーバー管理ガイド』を参照してください。

▼ BIOS の最適なデフォルト値を確認する

注記 - サーバーを新しく設置し、オペレーティングシステムをはじめてインストールした場合、通常 BIOS はデフォルト設定に構成されていて、このタスクを実行する必要はありません。

BIOS 設定ユーティリティでは、必要に応じて BIOS 設定を表示および編集するだけでなく、最適なデフォルト値を設定することもできます。最適なデフォルト値を設定することで、サーバーが既知の適切な構成で効率的に動作するようになります。最適なデフォルト値は『Oracle Server X5-2L サービスマニュアル』で確認できます。

BIOS 設定ユーティリティで (F2 キーを使用して) 行なった変更はすべて、次回に変更されるまで常時使用されます。

F2 キーを使用して BIOS 設定を表示または編集するだけでなく、ブートプロセス中に F8 キーを使用して一時ブートデバイスを指定することもできます。F8 キーを使用して一時ブートデバイスを設定した場合、この変更は現在のシステムブートのみで有効です。一時ブートデバイスでブートしたあとは、F2 キーを使用して指定した常時ブートデバイスが有効になります。

開始する前に、次の要件が満たされていることを確認してください。

- サーバーにハードディスクドライブ (HDD) または半導体ドライブ (SSD) が搭載されています。
- サーバーに HDD または SSD が正しく取り付けられています。手順については、『Oracle Server X5-2L サービスマニュアル』の「ストレージドライブおよび背面ドライブ (CRU) の保守」を参照してください。

1. ホストコンソールにアクセスします。

手順については、17 ページの「ホストコンソールへのアクセス」を参照してください。

2. サーバーの電源を入れるか、リセットします。

たとえば、サーバーをリセットするには次のいずれかを実行します。

- **ローカルサーバーで**、サーバーのフロントパネルにある電源ボタンを約 1 秒間押し、サーバーの電源を切った後、もう一度電源ボタンを押してサーバーに電源を入れます。
- **Oracle ILOM Web インタフェースから** 「Host Management」-> 「Power Control」を選択し、次に 「Select Action」 リストボックスから 「Reset」 を選択します。
- **Oracle ILOM コマンド行インタフェースから**、 「reset /system」と入力します。

サーバーがブートプロセスを開始し、BIOS 画面が表示されます。



注記 - 次のイベントがすぐに発生するため、次の段階では集中する必要があります。画面に表示される時間が短いため、これらのメッセージを注意して観察してください。

3. **BIOS 画面でプロンプトが表示されたら、F2 キーを押して BIOS 設定ユーティリティにアクセスします。**
しばらくすると、BIOS 設定ユーティリティが表示されます。
4. **F9 キーを押して、最適なデフォルト設定を自動的にロードします。**
「OK」を選択してこの操作を続行するか、「CANCEL」を選択してこの操作を取り消すよう求めるメッセージが表示されます。
5. **メッセージの「ok」を強調表示して、Enter キーを押します。**
6. **F10 キーを押して変更を保存し、BIOS 設定ユーティリティを終了します。**
あるいは、「Exit」メニューから「Save and Reset」を選択できます。

▼ ブートモードを設定する

サーバーには、レガシー BIOS と UEFI の両方のブートモードをサポートする Unified Extensible Firmware Interface (UEFI) が装備されています。デフォルトでは、レガシー BIOS ブートモードが有効になります。

VMware ESXi は、レガシー BIOS と UEFI の両方のブートモードをサポートしています。ただし、ブートモードのときにインストールされたソフトウェアを実行する必要があります。つまり、VMWare ESXi をインストールしたあとでブートモードを切り替

える場合は、このソフトウェアを再インストールする必要があります。VMware ESXi をインストールする前に、どちらのブートモードが環境に適しているかを判断してください。

1. ホストコンソールにアクセスします。

手順については、[17 ページの「ホストコンソールへのアクセス」](#)を参照してください。

2. サーバーの電源を入れるか、リセットします。

たとえば、サーバーをリセットするには次のいずれかを実行します。

- **ローカルサーバーで**、サーバーのフロントパネルにある電源ボタンを約 1 秒間押し、サーバーの電源を切ってから、もう一度電源ボタンを押してサーバーに電源を入れます。
- **Oracle ILOM Web インタフェースから**「Host Management」->「Power Control」を選択し、次に「Select Action」リストボックスから「Reset」を選択します。
- **Oracle ILOM コマンド行インタフェースから**、「reset /System」と入力します。

サーバーがブートプロセスを開始し、BIOS 画面が表示されます。



注記 - 次のイベントがすぐに発生するため、次の段階では集中する必要があります。画面に表示される時間が短いため、これらのメッセージを注意して観察してください。

3. BIOS 画面でプロンプトが表示されたら、F2 キーを押して BIOS 設定ユーティリティにアクセスします。

しばらくすると、BIOS 設定ユーティリティが表示されます。

4. BIOS 設定ユーティリティで、矢印キーを使用して「Boot」メニューに移動します。

「Boot」メニューが表示されます。

```

Aprio Setup Utility - Copyright (C) 2013 American Megatrends, Inc.
Main Advanced ID Boot Exit

UEFI/BIOS Boot Mode [Legacy]
Retry Boot List [Enabled]
Network Boot Retry [Enabled]

Persistent Boot Support [Disabled]

▶ OSA Configuration

Legacy Boot Option Priority
[RAID:PCIE4:(Bus 23 Dev 00)PCI RAID Adapter]
[PXE:NET0:IBA XE Slot 3A00 v2320]
[PXE:NET1:IBA XE Slot 3A01 v2320]
[PXE:NET2:IBA XE Slot 8200 v2320]
[PXE:NET3:IBA XE Slot 8201 v2320]

UEFI: Only UEFI Boot options are initialized and present to user.
Legacy: Only legacy boot options are initialized and present to user.

**+: Select Screen
↑↓: Select Item
Enter: Select
+/-: Change Opt.
F1: General Help
F7: Discard Changes
F9: Optimized Defaults
F10: Save & Exit
ESC: Exit

Version 2.16.1243. Copyright (C) 2013 American Megatrends, Inc.
AB
    
```

注記 - ブート順序リスト内のオプションは、ストレージドライブ構成や、永続ブートサポート機能を有効にしているかどうかによって異なります。永続ブートサポートの詳細は、<http://www.oracle.com/goto/x86AdminDiag/docs> にある『Oracle X5 シリーズサーバー管理ガイド』を参照してください。

5. 下矢印キーを使用して「UEFI/BIOS Boot Mode」フィールドを選択し、Enter キーを押します。
6. 優先使用するブートモードを選択し、Enter キーを押します。
7. F10 キーを押して変更を保存し、BIOS 設定ユーティリティを終了します。

ホストコンソールへのアクセス

VMware ESXi インストールウィザードを表示するには、ローカルまたはリモートのどちらかでホストコンソールにアクセスする必要があります。このセクションでは、ホストからグラフィカルな出力を表示する手順について説明します。

- 18 ページの「ローカルグラフィックスモニターを使用してホストコンソールにアクセスする」
- 18 ページの「Oracle ILOM リモートシステムコンソールプラスを使用してホストコンソールにアクセスする」

▼ ローカルグラフィックスモニターを使用してホストコンソールにアクセスする

1. VGA モニターをサーバーの VGA ポートに接続します。
2. USB キーボードおよびマウスをサーバーの USB コネクタに接続します。

関連情報

- 『Oracle Server X5-2L 設置ガイド』の「サーバーの配線」

▼ Oracle ILOM リモートシステムコンソールプラスを使用してホストコンソールにアクセスする

次の手順では、Oracle ILOM リモートコンソールアプリケーションを使用してリモートシステムからホストコンソールにアクセスする方法について説明します。Oracle ILOM にリモートでログインするには、サーバーのサービスプロセッサ (SP) の IP アドレスを確認する必要があります。手順については、『Oracle Server X5-2L 設置ガイド』の「リモート Ethernet 接続を使用した Oracle ILOM へのログイン」を参照してください。

1. サーバーのネットワーク管理ポート (NET MGT) へのネットワークアクセスを備えたリモートシステム上で、Web ブラウザを開きます。
2. アドレスバーにサーバー SP の IP アドレスを入力し、Enter キーを押します。
3. Oracle ILOM Web インタフェースにログインします。
デフォルトの Oracle ILOM ユーザー名は root であり、デフォルトのパスワードは changeme です。
Oracle ILOM の「Summary Information」ページが表示されます。
4. 「Actions」パネルで、「Remote Console Launch」ボタンをクリックします。
Oracle ILOM リモートシステムコンソールプラス画面が表示されます。
詳細は、『Oracle Server X5-2L 設置ガイド』の「グラフィカルリモートホストコンソールにアクセスする (Web)」を参照してください。

関連情報

- Oracle ILOM 3.2 ドキュメントライブラリ (<http://www.oracle.com/goto/ILOM/docs>)

ブートメディアの準備

VMware ESXi インストーラのイメージには、ローカルまたはリモートのどちらかでサーバーからアクセスできる必要があります。次のセクションでは、VMware ESXi インストーラのブートメディアを準備する方法について説明します。

- [19 ページの「ローカルインストール用のブートメディアを設定する」](#)
- [19 ページの「リモートインストール用のブートメディアを設定する」](#)

▼ ローカルインストール用のブートメディアを設定する

1. CD/DVD バーナーを備えたシステム上で、VMware Web サイト (<https://my.vmware.com/web/vmware/downloads>) から VMware ESXi 5.5 インストーラの ISO イメージをダウンロードします。
2. ISO イメージを CD または DVD に書き込みます。
3. VMware ESXi 5.5 のインストール CD または DVD をサーバーに接続された DVD ドライブに挿入します。
 - サーバーにオプションの DVD ドライブが装備されている場合は、サーバーのフロントパネルにある DVD ドライブにインストールメディアを挿入します。
 - サーバーに DVD ドライブが装備されていない場合は、サーバーのいずれかの USB ポートに DVD ドライブを接続し、そのドライブにインストールメディアを挿入します。

サーバーにローカルデバイスを接続する方法については、『[Oracle Server X5-2L 設置ガイド](#)』の「[サーバーの配線](#)」を参照してください。

▼ リモートインストール用のブートメディアを設定する

1. サーバーのネットワーク管理ポート (NET MGT) へのネットワークアクセスを備えたリモートシステム上で、VMware Web サイト (<https://my.vmware.com/web/>

[vmware/downloads](#)) から VMware ESXi 5.5 インストーラの ISO イメージをダウンロードします。

あるいは、次のいずれかを実行できます。

- インストールイメージを CD または DVD に書き込んでから、そのインストールメディアをリモートシステムに接続された DVD ドライブに挿入します。
- インストールイメージをネットワーク上の別の場所にダウンロードしてから、NFS または Samba プロトコルを使用して、そのイメージをサーバーのサービスプロセッサにリダイレクトします。
ネットワーク上の別の場所からの ISO イメージのリダイレクトについては、『Oracle ILOM 構成および保守用管理者ガイド』の Oracle ILOM リモートデバイスのセクション、または「Oracle ILOM Remote Control」->「Host Storage Device」Web インタフェースページにある「More Details」リンクを参照してください。

2. リモートシステム上で Oracle ILOM リモートシステムコンソールプラスを起動します。

手順については、18 ページの「Oracle ILOM リモートシステムコンソールプラスを使用してホストコンソールにアクセスする」を参照してください。

3. Oracle ILOM リモートシステムコンソールプラスアプリケーションの「KVMS」メニューで、「Storage」を選択します。

「Storage Devices」ダイアログボックスが表示されます。

4. 「Storage Devices」ダイアログボックスで、次の手順を実行します。

- a. 「SSL Enabled」を選択解除し、「Add」をクリックします。

「Add Storage Devices」ダイアログボックスが表示されます。

- b. ISO イメージを参照して選択し、「Select」をクリックします。

そのイメージファイルが「Storage Devices」ダイアログボックスに表示されます。

- c. ISO イメージを選択し、「Connect」をクリックします。

ISO イメージがリモートコンソールにマウントされ、OS インストールの実行に使用できるようになります。

インストール先の準備

VMware ESXi インストーラをブートする前に、インストール先を選択して準備します。

- 21 ページの「インストール先のオプション」
- 22 ページの「ローカルストレージドライブ (HDD、SSD、または RAID ボリューム) をインストール先として設定する」
- 22 ページの「ファイバチャネル Storage Area Network デバイスをインストール先として設定する」

インストール先のオプション

組み込み型の Oracle System Assistant USB フラッシュドライブ (Oracle System Assistant 用に予約されています) と、サーバーのフロントパネルにあるオプションの NVMe Express (NVMe) ドライブを除き、サーバーに取り付けられたどのストレージドライブにもソフトウェアをインストールできます。ハードディスクドライブ (HDD)、半導体ドライブ (SSD)、仮想ドライブ、および iSCSI ソフトウェアディスクは、VMware ESXi 5.5 の有効なインストール先です。ただし、このガイドでは iSCSI ターゲットへのインストールについては説明していません。iSCSI ターゲットへのインストールの詳細は、<http://pubs.vmware.com/vsphere-55/index.jsp> にある VMware ESXi 5.5 のドキュメントを参照してください。

ファイバチャネル PCIe ホストバスアダプタ (HBA) を備えたサーバーでは、オペレーティングシステムを外付けのファイバチャネルストレージデバイスにインストールするよう選択できます。

注記 - NVMe ドライブは、VMware ESXi ソフトウェアを実行しているサーバーではサポートされません。サーバーに NVMe ドライブが装備されている場合にこれらのドライブを使用するには、Oracle Solaris または Oracle Linux オペレーティングシステムのどちらかをインストールする必要があります。

重要: 内蔵の組み込み型 Oracle System Assistant USB フラッシュドライブは、ブート用またはストレージ用のドライブとしては使用しないでください。

サーバーは、組み込み型 Oracle System Assistant USB フラッシュドライブを装備した状態で出荷されます。このドライブには、Oracle System Assistant、デバイスドライバ、Oracle ILOM、BIOS、およびサポートされている IO デバイス用のファームウェアが含まれています。サポートされるすべてのオペレーティングシステムのインストール中に、この USB フラッシュドライブは、読み取り/書き込み可能な単一パーティションを持つ SCSI ディスクとして検出され、ドライブのリストに `Oracle_SSM` と表示されます。次の操作を実行するときに、このデバイスを上書きしないように注意してください。

- オペレーティングシステムのインストール
- ディスクまたはパーティションのフォーマット操作
- 一般的なディスク、パーティション、またはファイルシステムの保守

この USB フラッシュドライブが上書きされた場合でも、元の内容を復元できます。USB フラッシュドライブの内容を復元するには、Oracle System Assistant 回復および ISO 更新イメージを取得し、それを使用して復元操作を実行します。

Oracle System Assistant 回復および ISO 更新イメージをダウンロードし、Oracle System Assistant フラッシュドライブを復元する手順については、<http://www.oracle.com/goto/x86AdminDiag/docs> にある『Oracle X5 シリーズサーバー管理ガイド』を参照してください。

▼ ローカルストレージドライブ (HDD、SSD、または RAID ボリューム) をインストール先として設定する

1. ターゲットのハードディスクドライブ (HDD) または半導体ドライブ (SSD) が正しく取り付けられ、電源が入っていることを確認します。

HDD または SSD の取り付けおよび電源投入の詳細は、『Oracle Server X5-2L サービスマニュアル』の「ストレージドライブおよび背面ドライブ (CRU) の保守」を参照してください。

2. ターゲットのドライブが環境に合わせて構成されていることを確認します。
デフォルトでは、サーバー上の各物理ドライブは論理 RAID 0 ボリュームとして構成されます。代替構成を実装するには、次のリソースを参照してください。
 - 『Oracle Server X5-2L 設置ガイド』の「OS インストール用のサーバードライブの構成」
 - 『Oracle X5 シリーズサーバー管理ガイド』 (<http://www.oracle.com/goto/x86AdminDiag/docs>)

▼ ファイバチャネル Storage Area Network デバイスをインストール先として設定する

1. サーバーに PCIe ホストバスアダプタ (HBA) が正しく取り付けられていることを確認します。

PCIe HBA オプションの取り付けの詳細は、『Oracle Server X5-2L サービスマニュアル』の「PCIe カード (CRU) の保守」を参照してください。

2. **Storage Area Network (SAN) をインストールおよび構成して、サーバー上のホストでストレージデバイスが認識されるようにします。**

手順については、ファイバチャネル HBA に付属のドキュメントを参照してください。

ESXi 5.5 のインストールをサポートするための HBA のキャッシュ設定の構成

Oracle Storage 12 Gb/s SAS PCIe RAID 内蔵 HBA (ホストバスアダプタ) のデフォルトのキャッシュ設定では、ESXi 5.5 のインストールが失敗します。インストールを正常に完了できるようにするには、次の手順で説明されているように、キャッシュ設定を変更する必要があります。

- [23 ページの「レガシー BIOS ブートモードで HBA のキャッシュ設定を構成する」](#)
- [27 ページの「UEFI ブートモードで HBA のキャッシュ設定を構成する」](#)

▼ レガシー BIOS ブートモードで HBA のキャッシュ設定を構成する

1. **ホストコンソールにアクセスします。**

手順については、[17 ページの「ホストコンソールへのアクセス」](#)を参照してください。

2. **サーバーの電源を入れるか、リセットします。**

たとえば、サーバーをリセットするには次のいずれかを実行します。

- **ローカルサーバーで**、サーバーのフロントパネルにある電源ボタンを約 1 秒間押し、サーバーの電源を切ってから、もう一度電源ボタンを押してサーバーに電源を入れます。
- **Oracle ILOM Web インタフェースから**「Host Management」->「Power Control」を選択し、次に「Select Action」リストボックスから「Reset」を選択します。
- **Oracle ILOM コマンド行インタフェースから**、「`reset /System`」と入力します。

サーバーがブートプロセスを開始し、BIOS 画面が表示されます。



注記 - 次のイベントがすぐに発生するため、次の段階では集中する必要があります。画面に表示される時間が短いため、これらのメッセージを注意して観察してください。

3. BIOS 画面でプロンプトが表示されたら、Ctrl+R を押して MegaRAID Configuration Utility を起動します。

「Virtual Drive Management」画面が表示されます。



4. 「Virtual Drive Management」画面で、ソフトウェアのインストール先を含むドライブグループの ID フィールドに移動します。
5. F2 キーを押します。
「Operations」メニューが表示されます。



6. 「Operations」メニューで、「Properties」オプションに移動し、Enter キーを押します。

「Virtual Drive Properties」画面が表示されます。



7. 「Virtual Drive Properties」画面で、「Advanced」を選択し、Enter キーを押します。

「Advanced Properties」ダイアログボックスが表示されます。



8. 「Advanced Properties」ダイアログボックスで、次の手順を実行します。
 - a. 「Read Policy」プロパティを「Normal」に設定します。
 - b. 「I/O Policy」プロパティを「Cached」に設定します。
 - c. 「OK」ボタンに移動してから、Enter キーを押して「Advanced Properties」ダイアログボックスを終了します。
「Virtual Drive Properties」画面がふたたび表示されます。
9. 「OK」ボタンに移動してから、Enter キーを押して「Virtual Drive Properties」画面を終了します。
「Virtual Drive Management」画面がふたたび表示されます。
10. Esc キーを押して変更を保存し、MegaRAID Configuration Utility を終了します。
終了することを確認するよう求めるメッセージが表示されます。
11. 「OK」ボタンに移動してから、Enter キーを押して、ユーティリティを終了することを確認します。

▼ UEFI ブートモードで HBA のキャッシュ設定を構成する

1. ホストコンソールにアクセスします。
手順については、17 ページの「[ホストコンソールへのアクセス](#)」を参照してください。
2. サーバーの電源を入れるか、リセットします。
たとえば、サーバーをリセットするには次のいずれかを実行します。
 - ローカルサーバーで、サーバーのフロントパネルにある電源ボタンを約 1 秒間押し、サーバーの電源を切ってから、もう一度電源ボタンを押してサーバーに電源を入れます。
 - Oracle ILOM Web インタフェースから「Host Management」->「Power Control」を選択し、次に「Select Action」リストボックスから「Reset」を選択します。
 - Oracle ILOM コマンド行インタフェースから、「reset /System」と入力します。

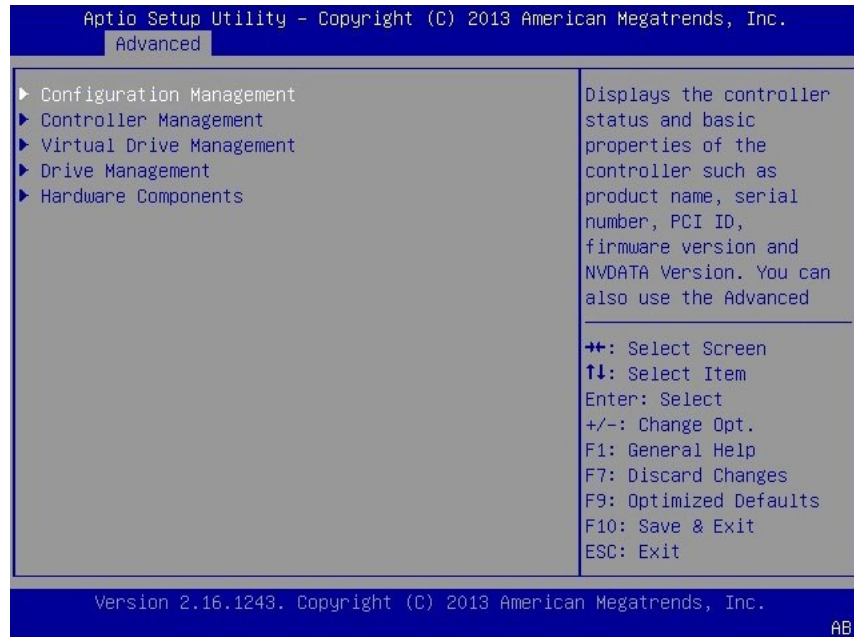
サーバーがブートプロセスを開始し、BIOS 画面が表示されます。



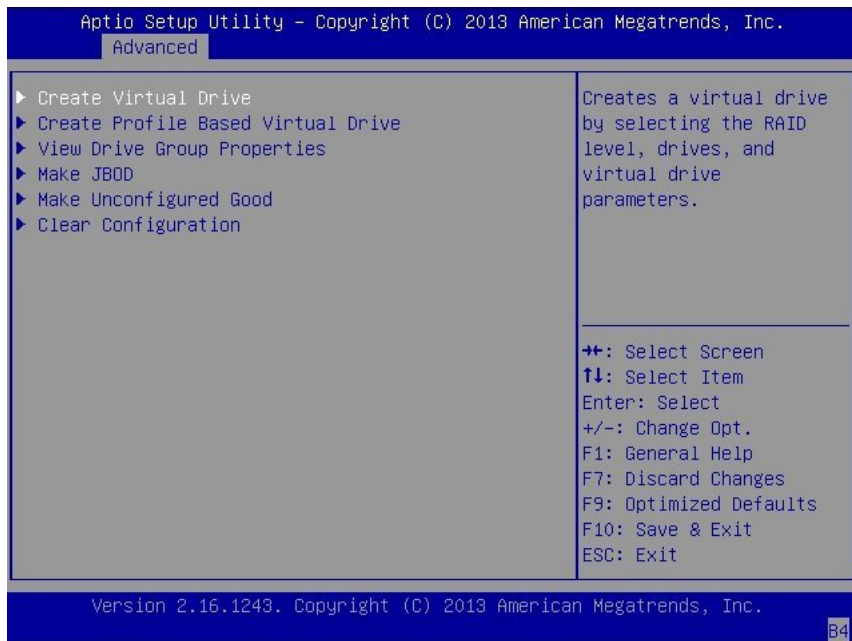
注記 - 次のイベントがすぐに発生するため、次の段階では集中する必要があります。画面に表示される時間が短いため、これらのメッセージを注意して観察してください。

3. BIOS 画面でプロンプトが表示されたら、F2 キーを押して BIOS 設定ユーティリティにアクセスします。
4. 「Advanced」メニューに移動します。
5. 「Advanced」メニューで、「LSI MegaRAID Configuration Utility」を選択します。

「LSI Human Interface Interaction (HII) Configuration Utility」メニューが表示されます。

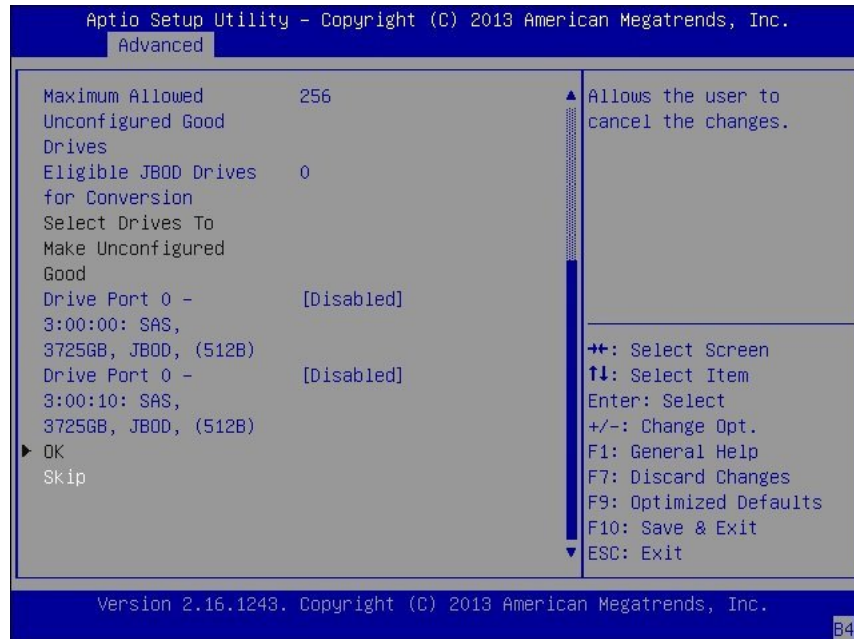


6. 「Configuration Management」を選択します。



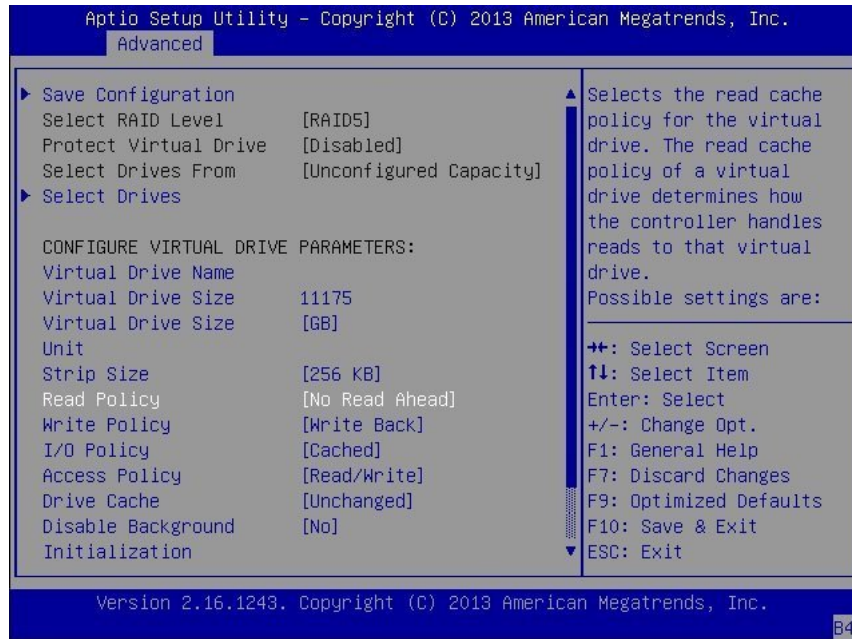
7. 「Create Virtual Drive」を選択します。

「JBOD Conversion」画面が表示されます。



8. 「JBOD Conversion」画面の下部までスクロールし、「Skip」を選択してこの画面を終了します。

「Create Virtual Drive」画面が表示されます。



9. 画面の「Configure Virtual Drive Parameters」部分で、次の手順を実行します。
 - a. 「Read Policy」を「No Read Ahead」に設定します。
 - b. 「I/O Policy」を「Cached」に設定します。
 - c. 「Save Configuration」を選択します。
確認画面が表示されます。
 - d. 「Confirm」フィールドを「Enabled」に設定します。
 - e. 「Yes」を選択します。
10. F10 キーを押して変更を保存し、BIOS 設定ユーティリティを終了します。

VMware ESXi のインストールをサポートするための入出力設定の構成

サーバーは、デフォルトで 64 ビット MMIO (Memory Mapped I/O) に設定されます。これにより、追加の PCIe メモリーのアドレス空間を、オプション ROM を含む PCIe カード用の標準の 32 ビット 4G バイトの領域を超えてマップできます。ただし、VMware ESXi は、標準の 4G バイトを超える MMIO 領域と互換性がありません。そのため、VMware ESXi をインストールする前に、BIOS 設定ユーティリティーで「64 Bit Resources Allocation」プロパティを「Disabled」に設定する必要があります。

「64 Bit Resources Allocation」プロパティを無効にしないで VMware ESXi をインストールしようとする、インストールが失敗するか、システム内の PCIe カードが誤動作することがあります。

このプロパティを無効にするには、次の手順を参照してください。

- [33 ページの「PCI 64 Bit Resources Allocation」プロパティを無効にする](#)

▼ 「PCI 64 Bit Resources Allocation」プロパティを無効にする

1. ホストコンソールにアクセスします。

手順については、[17 ページの「ホストコンソールへのアクセス」](#)を参照してください。

2. サーバーの電源を入れるか、リセットします。

たとえば、サーバーをリセットするには次のいずれかを実行します。

- **ローカルサーバーで**、サーバーのフロントパネルにある電源ボタンを約 1 秒間押し、サーバーの電源を切った後、もう一度電源ボタンを押してサーバーに電源を入れます。
- **Oracle ILOM Web インタフェースから**「Host Management」->「Power Control」を選択し、次に「Select Action」リストボックスから「Reset」を選択します。
- **Oracle ILOM コマンド行インタフェースから**、「`reset /System`」と入力します。

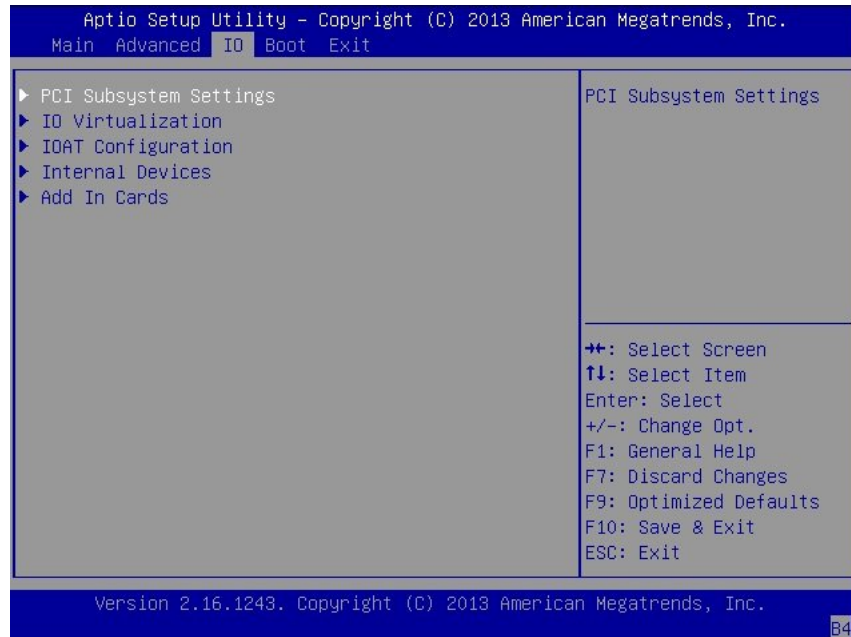
サーバーがブートプロセスを開始し、BIOS 画面が表示されます。



注記 - 次のイベントがすぐに発生するため、次の段階では集中する必要があります。画面に表示される時間が短いため、これらのメッセージを注意して観察してください。

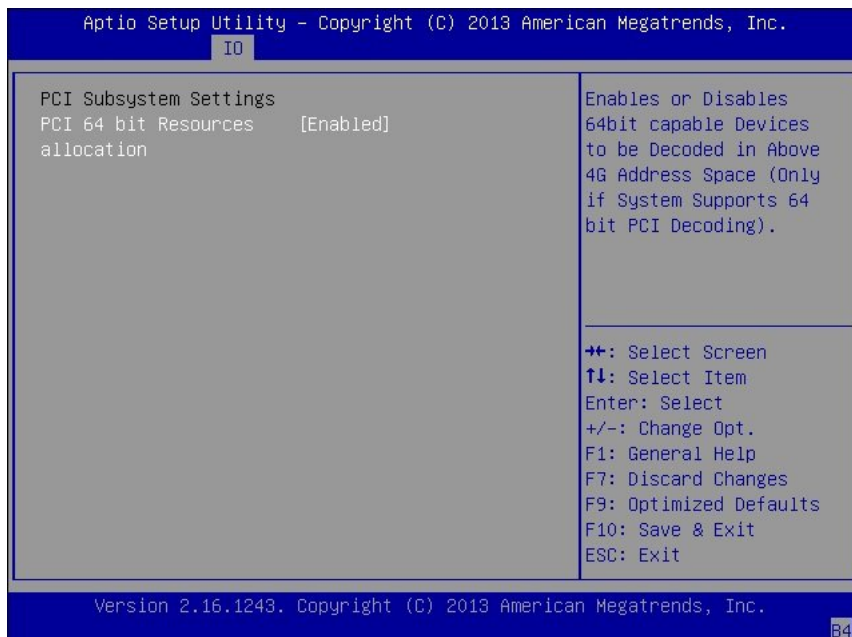
3. BIOS 画面でプロンプトが表示されたら、F2 キーを押して BIOS 設定ユーティリティにアクセスします。

4. 「IO」メニューに移動します。



5. 「IO」メニューで、「PCI Subsystem Settings」を選択します。

「PCI Subsystem Settings」画面が表示されます。



6. 「PCI 64 Bit Resources Allocation」プロパティを「Disabled」に設定します。
7. F10 キーを押して変更を保存し、BIOS 設定ユーティリティを終了します。

必要な情報の収集

VMware ESXi のインストール中に、インストーラからシステムに関する情報を入力するよう求められます。次の表を使用して、必要な情報を収集してください。

将来の使用に備えて、インストール中に使用する値を書きとめておいてください。

情報	必須またはオプション	デフォルト値	コメント
キーボード配列	必須	アメリカ英語	
VLAN ID	オプション	なし	VMware ESXi は、0 から 4094 までの VLAN ID を使用できます。VLAN ID の詳細は、 『Oracle ID の詳細は、』

情報	必須またはオプション	デフォルト値	コメント
			Server X5-2L 設置ガイド の「サービスプロセッサのネットワーク設定の表示または変更」を参照してください。
IP アドレス	オプション	DHCP	インストール中に DHCP でネットワークを構成できます。インストール後、ネットワーク設定を変更できます。
サブネットマスク	オプション	IP アドレスに基づいて計算される	
ゲートウェイ	オプション	構成された IP アドレスおよびサブネットマスクに基づく	
プライマリ DNS	オプション	構成された IP アドレスおよびサブネットマスクに基づく	
セカンダリ DNS	オプション	なし	
ホスト名	静的な IP 設定の場合は必須	なし	vSphere Web クライアントは、ESXi ホストにアクセスするためにホスト名または IP アドレスのどちらかを使用できます。
インストールの場所	必須	なし	1 つのディスクにコンポーネントをインストールする場合は、少なくとも 5G バイトが必要です。
既存の ESX または ESXi 設定を移行します。既存の VMFS データストアを保持します。	既存の ESXi または ESX インストールを含むドライブに ESXi をインストールする場合は必須。	なし	既存の ESX/ESXi 4.x または ESXi 5.0 インストールが存在する場合、ESXi インストーラは、インストール中に VMFS データストアを保持するか、上書きするか選択できます。
root パスワード	オプション	なし	root パスワードには、6 文字から 64 文字を含む必要があります。

VMware ESXi のインストール

このセクションでは、VMware ESXi をサーバーにインストールする手順について説明します。

説明	リンク
インストール前の要件を確認します。	39 ページの「開始する前に」
VMware ESXi をサーバーにインストールします。	40 ページの「メディアを使用した単一システムへの VMware ESXi のインストール」

開始する前に

次の要件が満たされていることを確認します。

- ブート環境を準備していること。詳細は、[13 ページの「ブート環境の準備」](#)を参照してください。
- ホストコンソールにアクセスできること。詳細は、[17 ページの「ホストコンソールへのアクセス」](#)を参照してください。
- ブートメディアを準備していること。詳細は、[19 ページの「ブートメディアの準備」](#)を参照してください。
- インストール先を選択しており、それが正しく設置されていることを確認していること。詳細は、[20 ページの「インストール先の準備」](#)を参照してください。
- インストールをサポートするように Oracle Storage 12 Gb/s SAS PCIe RAID 内蔵 HBA (ホストバスアダプタ) を構成していること。詳細は、[23 ページの「ESXi 5.5 のインストールをサポートするための HBA のキャッシュ設定の構成」](#)を参照してください。
- BIOS 設定ユーティリティーで「64 Bit Resources Allocation」プロパティを無効にしていること。詳細は、[33 ページの「VMware ESXi のインストールをサポートするための入出力設定の構成」](#)を参照してください。
- VM サービスコンソールに使用するネットワーク管理インタフェースを決定していること。

VM サービスコンソールおよび管理インタフェースでは、ネットワークインタフェースが必要です。サービスコンソールは、最初に見つかった接続中のインタフェースを自動的に使用しません。このため、ネットワークインタ

フェースのデフォルトは vmnic0 に設定されており、インストール中にサービスコンソール用のネットワークインタフェースを選択する必要があります。詳細は、[63 ページの「ネットワークインタフェースの構成」](#)を参照してください。

- VMware ESXi 5.5 のインストールドキュメントにアクセスできること。VMware ESXi のドキュメントは、<http://pubs.vmware.com/vsphere-55/index.jsp> から入手できます。

メディアを使用した単一システムへの VMware ESXi のインストール

次の手順では、ローカルまたはリモートソースから VMware ESXi 5.5 インストーラをブートする方法について説明します。

- [40 ページの「メディアを使用した単一システムへの VMware ESXi のインストール」](#)

代替のインストールオプションについては、[11 ページの「VMware ESXi のインストールオプション」](#)を参照してください。

▼ ローカルまたはリモートメディアを使用した VMware ESXi のインストール

開始する前に、[39 ページの「開始する前に」](#)にあるインストールの前提条件を確認してください。

1. **ホストコンソールにアクセスします。**
手順については、[17 ページの「ホストコンソールへのアクセス」](#)を参照してください。
2. **インストールメディアがブートに使用できることを確認します。**
手順については、[19 ページの「ブートメディアの準備」](#)を参照してください。
3. **サーバーの電源を入れるか、リセットします。**
たとえば、サーバーをリセットするには次のいずれかを実行します。
 - **ローカルサーバーで**、サーバーのフロントパネルにある電源ボタンを約 1 秒間押し、その後電源を切ってから、もう一度電源ボタンを押してサーバーに電源を入れます。
 - **Oracle ILOM Web インタフェースから**「Host Management」->「Power Control」を選択し、次に「Select Action」リストボックスから「Reset」を選択します。

- Oracle ILOM コマンド行インターフェースから、「reset /System」と入力します。

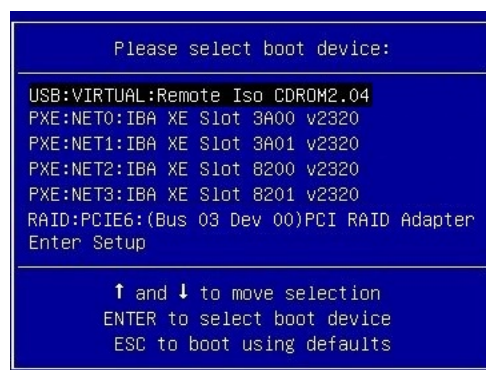
サーバーがブートプロセスを開始し、BIOS 画面が表示されます。



注記 - 次のイベントがすぐに発生するため、次の段階では集中する必要があります。画面に表示される時間が短いため、これらのメッセージを注意して観察してください。

4. BIOS 画面で F8 キーを押して、VMware のインストールで使用する一時ブートデバイスを指定します。

「Please Select Boot Device」メニューが表示されます。



5. 「Please Select Boot Device」メニューで、ブートデバイスとして外付けまたは仮想 CD/DVD デバイスを選択し、Enter キーを押します。

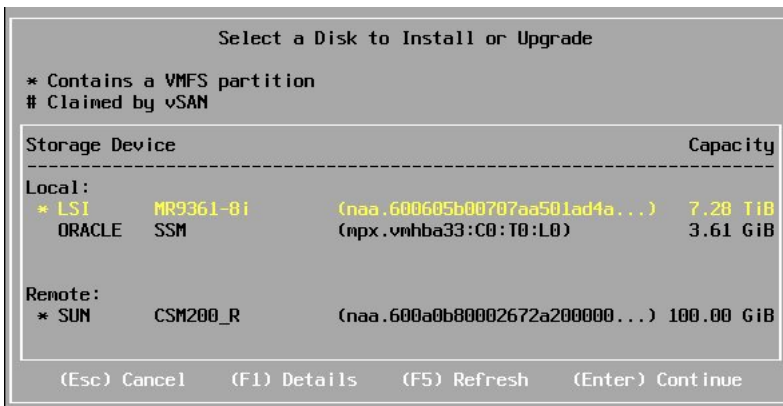
「Boot Device」メニューに表示されるデバイスの文字列は、デバイスタイプ、スロットインジケータ、および製品 ID 文字列で構成されています。

数秒後、VMware インストールプログラムのスプラッシュ画面が表示されます。

6. インストールを完了するには、VMware ESXi 5.5 のインストールドキュメントを参照してください。

VMware ESXi のインストールドキュメントには、<http://pubs.vmware.com/vsphere-55/index.jsp> でアクセスできます。

7. 次の画面が表示されたら、ESXi ソフトウェアをインストールするストレージドライブを選択します。



注意 - 上に示す画面で、Oracle SSM ドライブとは Oracle System Assistant USB フラッシュドライブのことです。このドライブを表示するために、画面の下部までスクロールすることが必要な場合があります。Oracle SSM ドライブは、決してソフトウェアインストールドライブとして選択しないでください。VMware ESXi を Oracle SSM ドライブにインストールすると、Oracle System Assistant ソフトウェアが上書きされ、Oracle System Assistant の復元が必要になります。Oracle System Assistant の復元手順については、<http://www.oracle.com/goto/x86AdminDiag/docs> にある『Oracle X5 シリーズサーバー管理ガイド』を参照してください。

8. VMware ESXi のインストールを完了したら、43 ページの「VMware ESXi のインストール後のタスク」に進みます。

VMware ESXi のインストール後のタスク

VMware ESXi のインストールを完了したら、次のインストール後のタスクを確認し、必要に応じて、使用しているシステムに該当するタスクを実行します。

説明	リンク
接続されたポートの MAC アドレスを確認します。	43 ページの「接続されているサーバーネットワークポートの MAC アドレスを確認する」
ネットワークアダプタを構成します。	44 ページの「ネットワークアダプタ設定を構成する」
megaraid_sas ドライバを有効にします。	49 ページの「megaraid_sas ドライバを有効にする」
レガシー BIOS ブートモードで Oracle Storage 12 Gb/s SAS PCIe RAID 内蔵 HBA (ホストバスアダプタ) のキャッシュ設定をデフォルト値に設定します。	51 ページの「レガシー BIOS ブートモードで HBA のキャッシュ設定をデフォルト値に戻す」
UEFI ブートモードで Oracle Storage 12 Gb/s SAS PCIe RAID 内蔵 HBA (ホストバスアダプタ) のキャッシュ設定をデフォルト値に設定します。	56 ページの「UEFI ブートモードで HBA のキャッシュ設定をデフォルト値に戻す」
VMware ESXi ソフトウェアを更新します。	61 ページの「VMware ESXi ソフトウェアを更新する」
VMware ESXi リソースを管理します。	61 ページの「VMware ESXi リソースを管理する」

▼ 接続されているサーバーネットワークポートの MAC アドレスを確認する

サーバーには、NET 0、NET 1、NET 2、および NET 3 の 4 つのネットワークポートがあります。このどれかのポートがネットワークに接続されると、VMware ESXi は、そのポートの MAC アドレスのシステムをポーリングします。

VMware ESXi サービスコンソール用のネットワークインタフェースを変更するには、優先使用する管理ポートの MAC アドレスを確認するようにしてください。サーバーネットワークポートの MAC アドレスを確認するには、次の手順を実行します。

注記 - シングルプロセッサシステムでは、NET 2 および NET 3 は機能しません。

1. **Oracle ILOM コマンド行インタフェースにログインします。**
手順については、『[Oracle Server X5-2L 設置ガイド](#)』の「[Oracle ILOM への接続](#)」を参照してください。
2. **次のコマンドを発行します。**
-> `show /System/Networking/Ethernet_NICs/Ethernet_NIC_n`
ここで、*n* は、サーバーの Ethernet ポートに対応する 0、1、2、または 3 です。
たとえば、Ethernet ポート NET0 がネットワークに接続されている場合は、このコマンドによって次の出力が生成されます。

```
-> show /System/Networking/Ethernet_NICs/Ethernet_NIC_0
/System/Networking/Ethernet_NICs/Ethernet_NIC_0
Targets:
Properties:
  health = OK
  health_details = -
  location = NET0 (Ethernet NIC 0)
  manufacturer = INTEL
  part_number = X540
  serial_number = Not Available
  mac_addresses = 00:21:28:3D:B7:96
Commands:
  cd
  show
->
```

注記 - 選択するネットワークアダプタが不明な場合は、ネットワーク管理者に問い合わせてください。

▼ ネットワークアダプタ設定を構成する

VMware ESXi は、各ポートに `vmnicn` などのデバイス名を割り当てます。ここで、*n* は、そのサーバー上のポート番号に対応していない可能性があります。

デフォルトでは、`vmnic0` は VMware ESXi サービスコンソール用のネットワークインタフェースです。`vmnic0` がネットワークに接続されていない場合は、サービスコンソールでネットワークアダプタ設定を変更する必要があります。これらの設定を変更するには、次の手順を実行します。

注記 - シングルプロセッサシステムでは、NET 2 および NET 3 は機能しません。

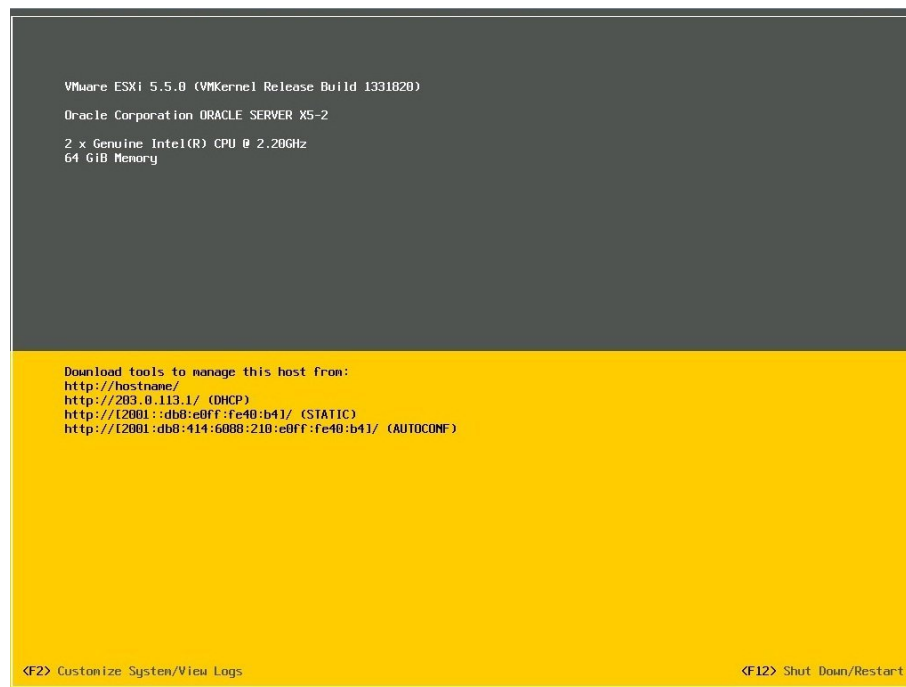
開始する前に、優先使用する管理ポートの MAC アドレスを確認します。手順については、[43 ページの「接続されているサーバーネットワークポートの MAC アドレスを確認する」](#)を参照してください。

1. **VMware ESXi のインストールを完了したら、サーバーをリセットするか、サーバーの電源を投入します。**

たとえば、サーバーをリセットするには次のいずれかを実行します。

- **ローカルサーバーで**、サーバーのフロントパネルにある電源ボタンを約 1 秒間押し、サーバーの電源を切ってから、もう一度電源ボタンを押してサーバーに電源を入れます。
- **Oracle ILOM Web インタフェースから** 「Host Management」-> 「Power Control」を選択し、次に 「Select Action」 リストボックスから 「Reset」 を選択します。
- **Oracle ILOM コマンド行インタフェースから**、 「reset /System」と入力します。

VMware ESXi のインストール後にはじめてサーバーの電源を投入すると、ホストは自動構成フェーズに入ります。ホストが自動構成されると、VMware ESXi の直接コンソールが画面に表示されます。



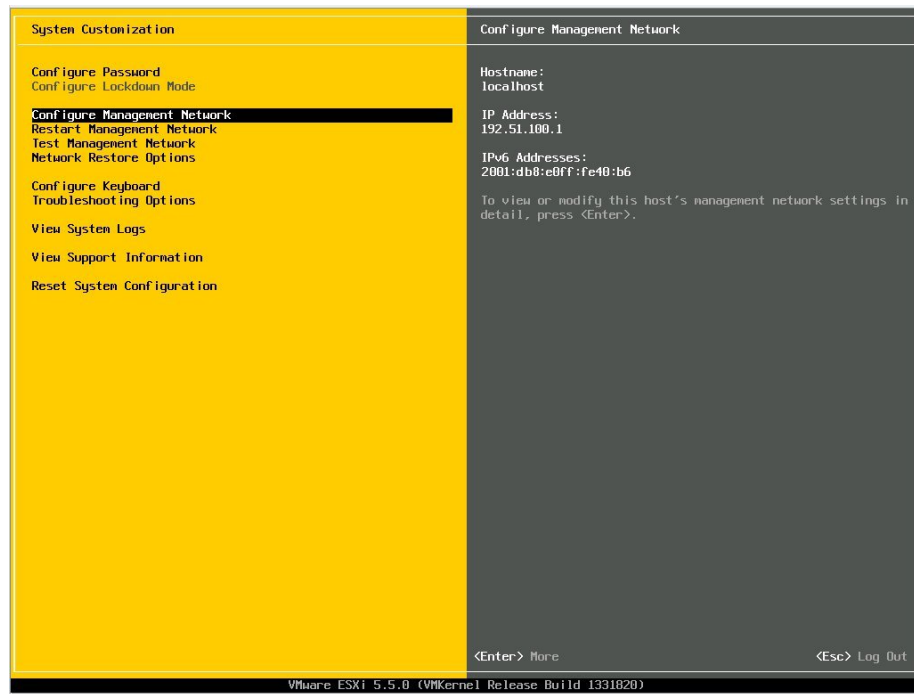
```
VMware ESXi 5.5.0 (VMKernel Release Build 1331820)
Oracle Corporation ORACLE SERVER X5-2
2 x Genuine Intel(R) CPU @ 2.20GHz
64 GiB Memory

Download tools to manage this host from:
http://hostname/
http://203.0.113.1/ (DHCP)
http://[2001::db8:e0ff:fe40:b41]/ (STATIC)
http://[2001:db8:414:6008:210:e0ff:fe40:b41]/ (AUTOCONF)

<F2> Customize System/View Logs          <F12> Shut Down/Restart
```

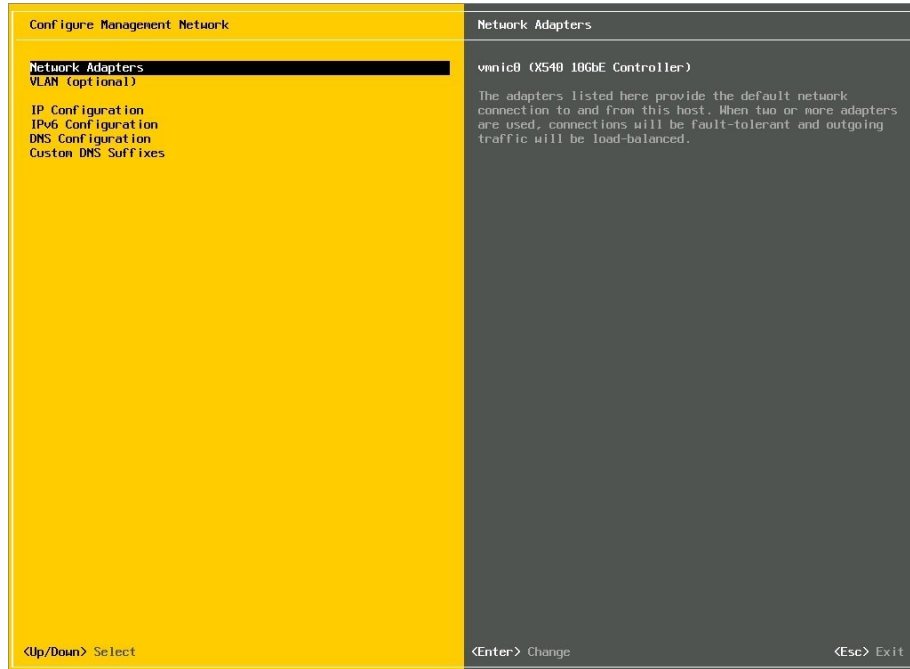
2. 直接コンソール画面で、F2 キーを押して 「Customize System/View Logs」 を選択します。
3. VMware ESXi サーバーにログインします。

「System Customization」画面が表示されます。



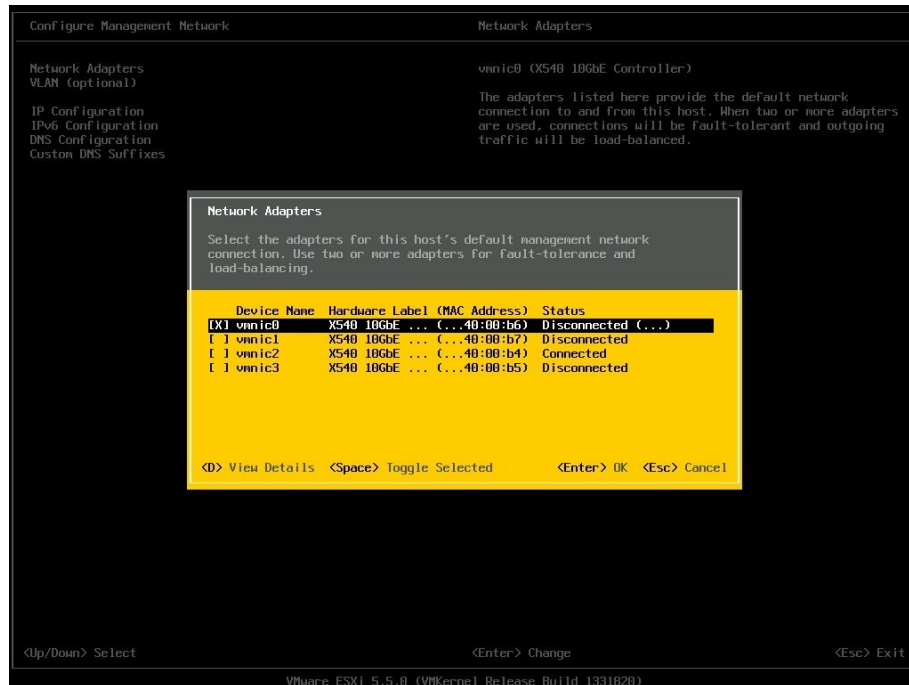
4. 「System Customization」画面で、「Configure Management Network」を選択します。

「Configure Management Network」画面が表示されます。



5. 「Configure Management Network」画面で、「Network Adapters」を選択します。

「Network Adapters」画面が表示されます。



6. VMware ESXi のデフォルトの管理ポートを変更するには、次の手順を実行します。

a. 現在の管理ポートを選択解除します。

b. 優先使用する管理ポートを選択します。

MAC アドレスフィールドを確認して、正しいポートを決定します。確認ダイアログボックスが表示されます。

c. 「Yes」を選択して変更を適用します。

管理ポートを変更すると、短時間のネットワーク停止やサーバーリセットが発生することがあります。

7. VMware ESXi 5.5 のドキュメントを参照して構成を完了します。

VMware ESXi 5.5 のドキュメントは、<http://pubs.vmware.com/vsphere-55/index.jsp> から入手できます。

▼ megaraid_sas ドライバを有効にする

VMware ESXi の正しい動作を保証するには、Oracle Storage 12 Gb/s SAS PCIe RAID 内蔵 HBA (ホストバスアダプタ) の megaraid_sas ドライバをインストールする必要があります。次に、デフォルトのドライバを無効にする必要があります。HBA ドライバを変更するには、次の手順を参照してください。

1. サーバーをリセットするか、サーバーの電源を投入して VMware ESXi の直接コンソールにアクセスします。
たとえば、サーバーをリセットするには次のいずれかを実行します。
 - ローカルサーバーで、サーバーのフロントパネルにある電源ボタンを約 1 秒間押してサーバーの電源を切ってから、もう一度電源ボタンを押してサーバーに電源を入れます。
 - Oracle ILOM Web インタフェースから「Host Management」->「Power Control」を選択し、次に「Select Action」リストボックスから「Reset」を選択します。
 - Oracle ILOM コマンド行インタフェースから、「reset /System」と入力します。
2. 直接コンソール画面で、F2 キーを押して「Customize System/View Logs」を選択します。
3. VMware ESXi サーバーにログインします。
「System Customization」画面が表示されます。
4. 「System Customization」画面で、「Troubleshooting Options」を選択します。
「Troubleshooting Mode Options」画面が表示されます。
5. 「Troubleshooting Mode Options」画面で、次を有効にします。
 - ESXi Shell
 - SSH
6. VMware ESXi 管理ポートへのネットワークアクセスを備えたシステム上で、SSH クライアントを使用してサーバーに接続します。
指示は、SSH クライアントによって異なります。一般には、サーバーの IP アドレスまたはホスト名のほか、ユーザー資格を指定する必要があります。
VMware ESXi のプロンプトが表示されます。
7. 次の VMware Web サイトから VMware ESXi 5.5 Driver for LSI MegaRAID SAS Adapters の zip ファイルをダウンロードします。
https://my.vmware.com/web/vmware/details?downloadGroup=DT-ESXI55-LSI-SAS-MEGARAID_SAS-660355001VMW&productId=353

8. megaraid_sas-6.603.55.00-1712343.zip ファイルを抽出します。

9. megaraid_sas-6.603.55.00-offline_bundle-1712343.zip ファイルを ESXi 5.5 サーバー上の vmfs/volumes/cert_datastore_UEFI/ ディレクトリにコピーします。

```
[johnsmith@hostname ESXi55]$ ~ # cd vmfs/volumes/cert_datastore_UEFI/
/vmfs/volumes/53dfb90c-df6f16cf-7366-0010e057792c # scp root@192.168.1.30:/root/
megaraid_sas-6.603.55.00-offline_bundle-1712343.zip
.root@192.168.1.30's password: password
megaraid_sas-6.603.55.00-offline_bundle-1712343.zip 100% 57KB 56.9KB/s 00:00
/vmfs/volumes/53dfb90c-df6f16cf-7366-0010e057792c #
```

10. 次のコマンドを発行して、Oracle Storage 12 Gb/s SAS PCIe RAID 内蔵 HBA が lsi_mr3 ネイティブモードドライバを使用していることを確認します。

```
[johnsmith@hostname ESXi55]$ ~ # esxcfg-scsidevs -a
vmhba38 ahci link-n/a sata.vmhba38 (0:0:31.2) Intel Corporation Wellsburg AHCI Controller
vmhba39 ahci link-n/a sata.vmhba39 (0:0:31.2) Intel Corporation Wellsburg AHCI Controller
vmhba0 ahci link-n/a sata.vmhba0 (0:0:31.2) Intel Corporation Wellsburg AHCI Controller
vmhba1 lsi_mr3 link-n/a pscsi.vmhba1 (0:3:0.0) LSI MegaRAID SAS Invader Controller
vmhba40 ahci link-n/a sata.vmhba40 (0:0:31.2) Intel Corporation Wellsburg AHCI Controller
.
.
```

11. ホストを保守モードにします。

```
[johnsmith@hostname ESXi55]$ vim-cmd /hostsvc/maintenance_mode_enter
```

12. megaraid_sas-6.603.55.00-offline_bundle-1712343.zip ファイルを /vmfs/volumes/cert_datastore_UEFI/ ディレクトリにインストールします。

```
[johnsmith@hostname ESXi55]$ ~ # esxcli software vib install -d "/vmfs/volumes/
cert_datastore_UEFI/megaraid_sas-6.603.55.00-offline_bundle-1712343.zip"
Installation Result
Message: The update completed successfully, but the system needs to be rebooted for the
changes to be effective.
Reboot Required: true
VIBs Installed: LSI_bootbank_scsi-megaraid-sas_6.603.53.00-10EM.550.0.0.1331820
VIBs Removed: VMware_bootbank_scsi-megaraid-sas_5.34-9vmw.550.0.0.1331820
VIBs Skipped:
```

13. ホストをリブートしてから、SSH クライアントを使用してそのホストに再接続します。

ホストをリブートするには、**reboot** コマンドを発行できます。

14. 次のコマンドを発行して、LSI scsi-megaraid-sas インストールバンドルが存在することを確認します。

```
[johnsmith@hostname ESXi55]$ ~ # esxcli software vib list
Name Version Vendor Acceptance Level
Install Date
-----
scsi-megaraid-sas 6.603.53.00-10EM.550.0.0.1331820 LSI VMwareCertified 2014-
04-23
ata-pata-amd 0.3.10-3vmw.550.0.0.1331820 VMware VMwareCertified 2014-
04-21
ata-pata-atiixp 0.4.6-4vmw.550.0.0.1331820 VMware VMwareCertified 2014-
```

```

.
.
.

```

15. **lsi_mr3** ネイティブモードドライバを無効にします。

```
[johnsmith@hostname ESXi55]$ ~ # esxcli system module set --enabled=false --module=lsi_mr3
```

16. サーバーを通常の動作モードに戻します。

```
[johnsmith@hostname ESXi55]$ ~ # vim-cmd hostsvc/maintenance_mode_exit
```

17. ホストをリブートしてから、SSH クライアントを使用してそのホストに再接続します。

ホストをリブートするには、**reboot** コマンドを発行できます。

18. 次のコマンドを発行して、**Oracle Storage 12 Gb/s SAS PCIe RAID** 内蔵 HBA が **megaraid-sas** ドライバを使用していることを確認します。

```
[johnsmith@hostname ESXi55]$ ~ # esxcfg-scsidevs -a
vmhba38 ahci link-n/a sata.vmhba38 (0:0:31.2) Intel Corporation Wellsburg AHCI Controller
vmhba39 ahci link-n/a sata.vmhba39 (0:0:31.2) Intel Corporation Wellsburg AHCI Controller
vmhba0 ahci link-n/a sata.vmhba0 (0:0:31.2) Intel Corporation Wellsburg AHCI Controller
vmhba1 megaraid_sas link-n/a unknown.vmhba1 (0:3:0.0) LSI / Symbios Logic MegaRAID SAS
Invader Controller
vmhba40 ahci link-n/a sata.vmhba40 (0:0:31.2) Intel Corporation Wellsburg AHCI Controller
.
.
.
```

▼ レガシー BIOS ブートモードで HBA のキャッシュ設定をデフォルト値に戻す

VMware ESXi をインストールしたら、Oracle Storage 12 Gb/s SAS PCIe RAID 内蔵 HBA (ホストバスアダプタ) のキャッシュ設定をそのデフォルト値に戻す必要があります。デフォルト値に戻すことによって、サーバーの効率的な動作が保証されます。

1. ホストコンソールにアクセスします。

手順については、[17 ページの「ホストコンソールへのアクセス」](#)を参照してください。

2. サーバーの電源を入れるか、リセットします。

たとえば、サーバーをリセットするには次のいずれかを実行します。

- **ローカルサーバーで**、サーバーのフロントパネルにある電源ボタンを約 1 秒間押し、サーバーの電源を切った後、もう一度電源ボタンを押してサーバーに電源を入れます。
- **Oracle ILOM Web インタフェースから**「Host Management」->「Power Control」を選択し、次に「Select Action」リストボックスから「Reset」を選択します。

- Oracle ILOM コマンド行インターフェースから、「reset /System」と入力します。

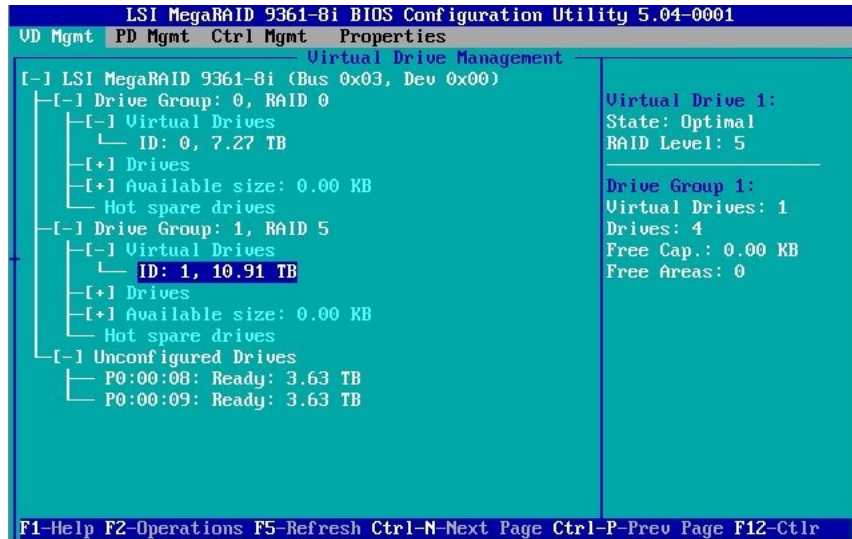
サーバーがブートプロセスを開始し、BIOS 画面が表示されます。



注記 - 次のイベントがすぐに発生するため、次の段階では集中する必要があります。画面に表示される時間が短いため、これらのメッセージを注意して観察してください。

3. BIOS 画面でプロンプトが表示されたら、**Ctrl+R** を押して **MegaRAID Configuration Utility** を起動します。

「Virtual Drive Management」画面が表示されます。



4. 「Virtual Drive Management」画面で、ソフトウェアをインストールしたドライブを含むドライブグループの ID フィールドに移動します。
5. F2 キーを押します。

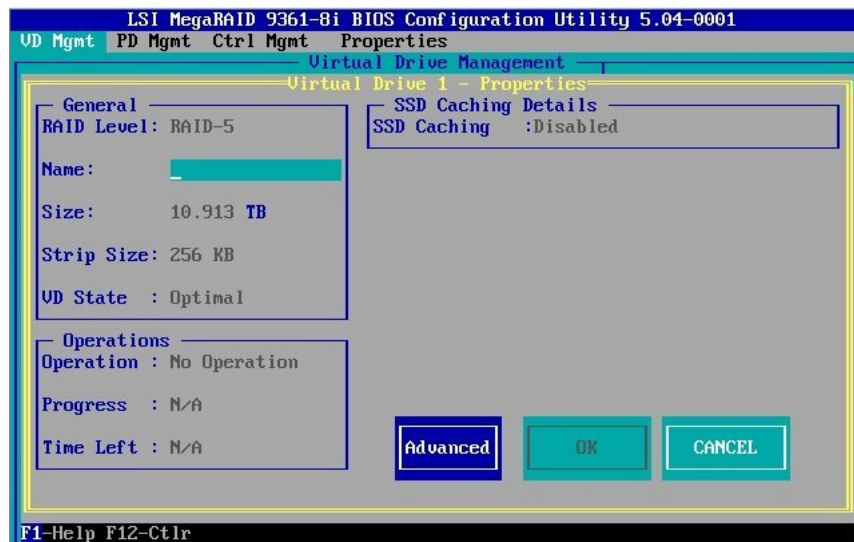
レガシー BIOS ブートモードで HBA のキャッシュ設定をデフォルト値に戻す

「Operations」メニューが表示されます。



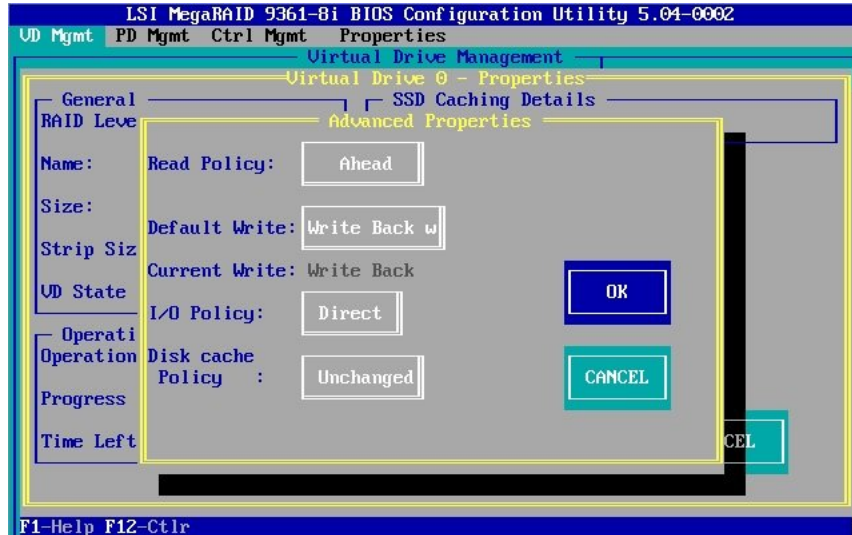
6. 「Operations」メニューで、「Properties」オプションに移動し、Enter キーを押します。

「Virtual Drive Properties」画面が表示されます。



7. 「Virtual Drive Properties」画面で、「Advanced」を選択し、Enter キーを押します。

「Advanced Properties」ダイアログボックスが表示されます。



8. 「Advanced Properties」ダイアログボックスで、次の手順を実行します。
 - a. 「Read Policy」プロパティを「Ahead」に設定します。
 - b. 「I/O Policy」プロパティを「Direct」に設定します。
 - c. 「OK」ボタンに移動してから、Enter キーを押して「Advanced Properties」ダイアログボックスを終了します。

「Virtual Drive Properties」画面がふたたび表示されます。
9. 「OK」ボタンに移動してから、Enter キーを押して「Virtual Drive Properties」画面を終了します。

「Virtual Drive Management」画面がふたたび表示されます。
10. Esc キーを押して変更を保存し、MegaRAID Configuration Utility を終了します。

終了することを確認するよう求めるメッセージが表示されます。
11. 「OK」ボタンに移動してから、Enter キーを押して、ユーティリティを終了することを確認します。

▼ UEFI ブートモードで HBA のキャッシュ設定をデフォルト値に戻す

VMware ESXi をインストールしたら、Oracle Storage 12 Gb/s SAS PCIe RAID 内蔵 HBA (ホストバスアダプタ) のキャッシュ設定をそのデフォルト値に戻す必要があります。デフォルト値に戻すことによって、サーバーの効率的な動作が保証されます。

1. **ホストコンソールにアクセスします。**
手順については、17 ページの「[ホストコンソールへのアクセス](#)」を参照してください。
2. **サーバーの電源を入れるか、リセットします。**
たとえば、サーバーをリセットするには次のいずれかを実行します。
 - **ローカルサーバーで**、サーバーのフロントパネルにある電源ボタンを約 1 秒間押し、サーバーの電源を切ってから、もう一度電源ボタンを押してサーバーに電源を入れます。
 - **Oracle ILOM Web インタフェース**から「Host Management」->「Power Control」を選択し、次に「Select Action」リストボックスから「Reset」を選択します。
 - **Oracle ILOM コマンド行インタフェース**から、「`reset /System`」と入力します。

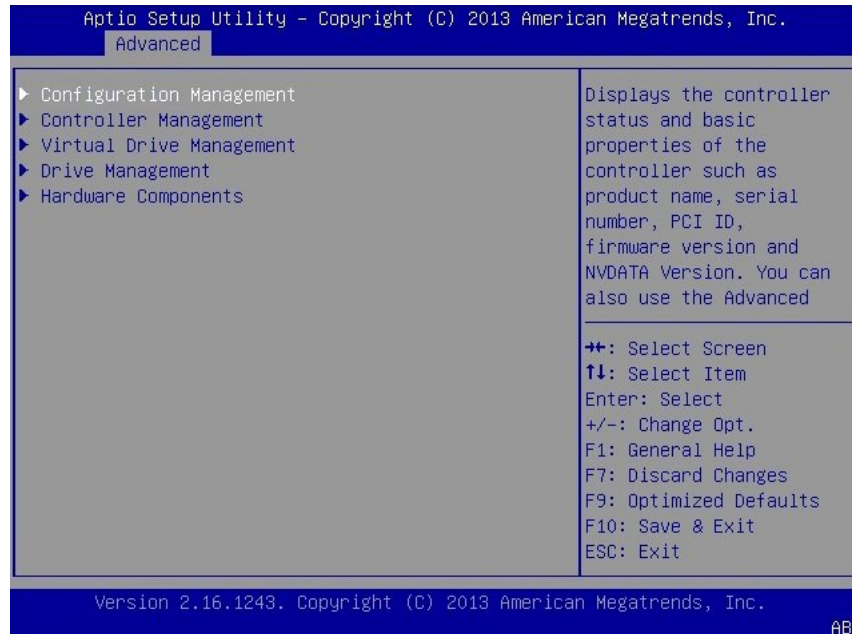
サーバーがブートプロセスを開始し、BIOS 画面が表示されます。



注記 - 次のイベントがすぐに発生するため、次の段階では集中する必要があります。画面に表示される時間が短いため、これらのメッセージを注意して観察してください。

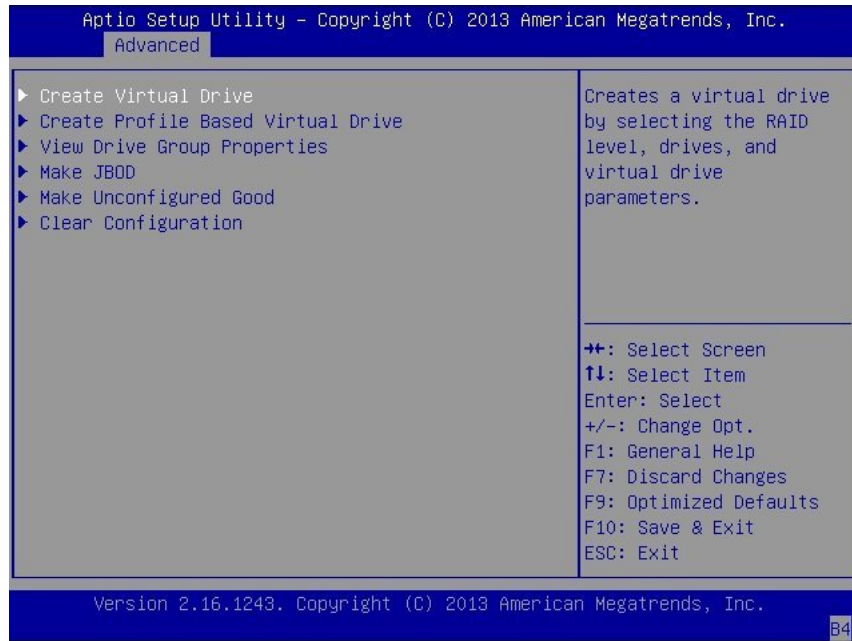
3. **BIOS 画面でプロンプトが表示されたら、F2 キーを押して BIOS 設定ユーティリティにアクセスします。**

4. 「Advanced」メニューに移動します。
5. 「Advanced」メニューで、「LSI MegaRAID Configuration Utility」を選択します。
「LSI Human Interface Interaction (HII) Configuration Utility」メニューが表示されます。



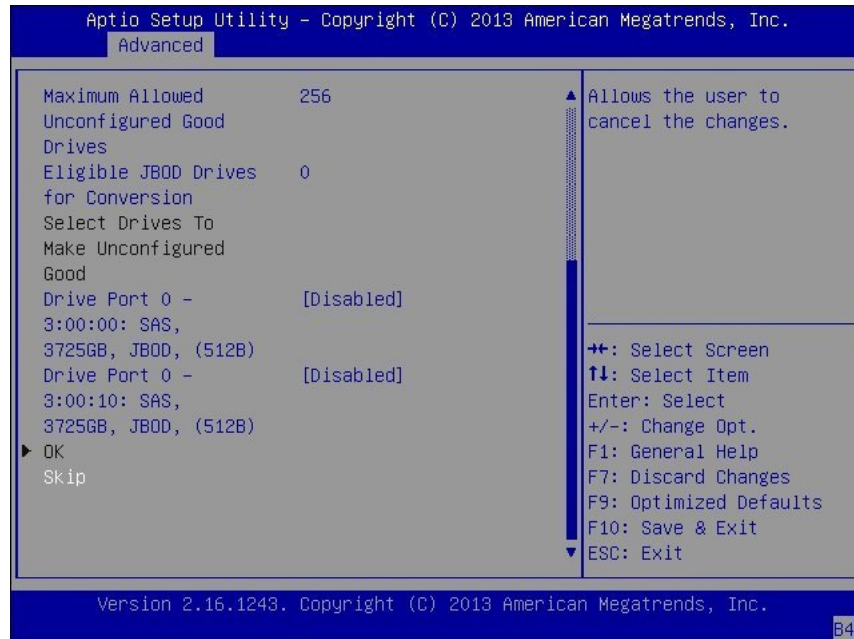
6. 「Configuration Management」を選択します。

「Configuration Management」画面が表示されます。



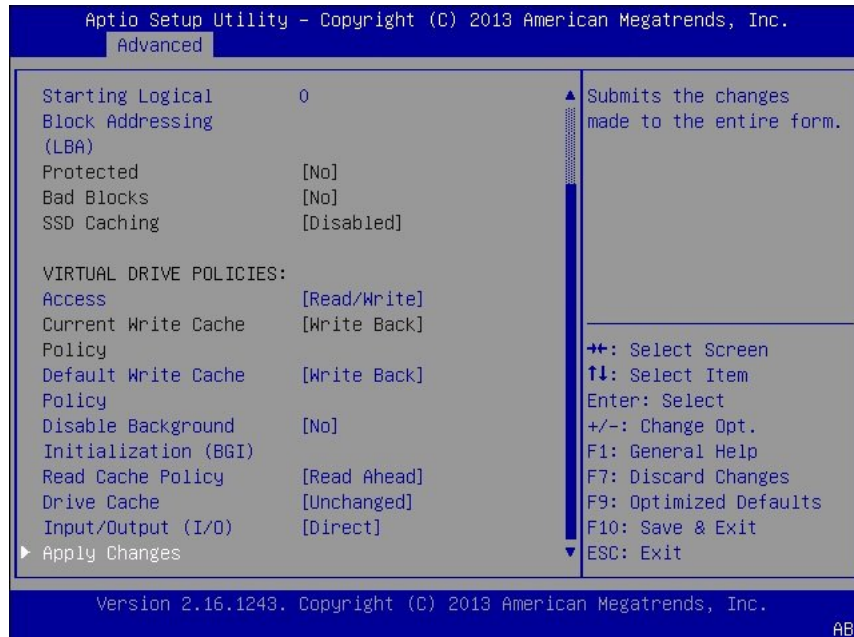
7. 「Create Virtual Drive」を選択します。

「JBOD Conversion」画面が表示されます。



8. 「JBOD Conversion」画面の下部までスクロールし、「Skip」を選択してこの画面を終了します。

「Create Virtual Drive」画面が表示されます。



9. 画面の「Virtual Drive Policies」部分で、次の手順を実行します。
 - a. 「Read Cache Policy」を「Read Ahead」に設定します。
 - b. 「Input/Output (I/O)」プロパティを「Direct」に設定します。
 - c. 「Apply Changes」を選択します。
確認画面が表示されます。
 - d. 「Confirm」フィールドを「Enabled」に設定します。
 - e. 「Yes」を選択します。
10. F10 キーを押して変更を保存し、BIOS 設定ユーティリティを終了します。

▼ VMware ESXi ソフトウェアを更新する

VMware ESXi のインストールメディアには、最新バージョンのソフトウェアが含まれていない場合があります。必要に応じて、VMware ESXi ソフトウェアを最新の更新およびパッチで更新します。

1. 現在のインストール向けの更新が VMware ESXi のダウンロード Web サイト (<http://support.vmware.com/selfsupport/download/>) から入手できるかどうか確認します。
2. 更新のインストールを完了するには、<http://pubs.vmware.com/vsphere-55/index.jsp> にある VMware ESXi 5.5 のドキュメントを参照してください。

VMware ESXi リソースを管理する

VMware では、ESXi に関するドキュメントを提供しています。

VMware ESXi リソースの構成と管理の詳細は、次の Web サイトにある VMware ESXi 5.5 のドキュメントを参照してください。

<http://pubs.vmware.com/vsphere-55/index.jsp>

ネットワークインタフェースの構成

このセクションでは、サーバー上のネットワークコネクタについて説明します。

- [63 ページの「NIC コネクタ」](#)

NIC コネクタ

サーバーにアドインのネットワークインタフェースカード (NIC) カードが取り付けられていない場合、VMware ESXi は、ネットワークポートの番号を次のように付け直します。

注記 - サーバーにアドインの NIC カードが取り付けられている場合、これらのマッピングは変わることがあります。

表 1 NIC コネクタのラベル

NIC コネクタのラベル	インタフェースタイプ
NET0	第 1 NIC インタフェース (vmnic2)
NET1	第 2 NIC インタフェース (vmnic3)
NET2	第 3 NIC インタフェース (vmnic0)
NET3	第 4 NIC インタフェース (vmnic1)

注記 - 単一プロセッサシステムでは、Ethernet ポート NET 2 および NET 3 は機能しません。

索引

あ

- 一時ブートデバイス
 - 指定, 41
- インストール
 - インストールメディアの使用, 40
 - 概要, 9
 - 画面, 36
 - タスクマップ, 9
- インストールオプション, 11
 - 単一サーバー, 11
 - リモート, 11
 - ローカル, 11
- インストール後のタスク
 - VMware ESXi, 43
- インストール後の要件
 - ホストバスアダプタのキャッシュ設定, 51, 56
- インストール先
 - オプション, 21
 - 準備, 20
 - ファイバチャネル Storage Area Network (SAN) デバイス, 22
 - ローカルストレージドライブ, 22
- インストールの前提条件, 39
- インストール前の要件
 - ホストバスアダプタのキャッシュ設定, 23

か

- 管理ポート
 - 設定, 44

さ

- サーバーの電源のリセット, 40
- サーバーポートの MAC アドレス
 - 確認, 43

サポートされているソフトウェアバージョン, 10

た

- タスクマップ, 9
- ドキュメント
 - VMware ESXi, 61
 - サーバー, 10
- ドライバ
 - 有効化, 49

な

- ネットワークインタフェース
 - 構成, 63

は

- パッチおよび更新, 61
- ブートメディア
 - 準備, 19
- ブートモード
 - 変更, 15
- ホストコンソール
 - 表示, 17
- ホストバスアダプタのキャッシュ設定
 - 構成
 - UEFI ブートモード, 27
 - レガシー BIOS ブートモード, 23, 51, 56

ま

- メモリーマップされた I/O の設定
 - 構成, 33

ら

- リモートコンソール
設定, 18
- リモートブートメディア
設定, 19
- ローカルコンソール
設定, 18
- ローカルブートメディア
設定, 19

B

- BIOS, 13
 - デフォルト値の設定, 14
 - ブートモードの変更, 15
 - メモリーマップされた I/O の制限, 33
- 「Boot Device」メニュー
選択, 41

C

- 「Configure Management Network」画面, 47

I

- ISO イメージ
 - VMware ESXi, 40
- ISO イメージからのブート, 40

M

- maintenance mode, 50
- megaraid_sas ドライバ, 49

O

- Oracle Storage 12 Gb/s SAS PCIe RAID 内蔵 HBA
制限, 23, 51, 56
- Oracle System Assistant
 - USB フラッシュドライブに関する注意, 21, 42

P

- PXE インストール, 11

R

- RAID ボリューム
インストール先として, 22

S

- 「System Customization」画面, 46

V

- VMware ESXi
 - インストールオプション, 11
 - インストール後のタスク, 43
 - 管理ポートの設定, 44
 - 構成, 36
 - サポートされているソフトウェアバージョン,
10
 - ネットワークアダプタの構成, 44
 - ネットワークインタフェースの構成, 63
- VMware ESXi の更新, 61
- VMware ESXi の構成, 61
- VMware
 - ドキュメント Web サイト, 48